

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

訪問先	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
訪問日時	2025 年 11 月 04 日(火)
訪問概要・目的	社会課題解決に貢献する企業を訪問し、私たちの生きる日本、世界の持続可能な未来に向けて、企業が果たすべき課題や実際の取り組みについて理解を深めることを目的とする。
担当 CVS	岩波理桜
報告書作成者	国際経営学部国際経営学科 1 年 遠藤雅大
参加学生数	21 人(内、1 年生 12 人、2 年生 7 人、3 年生 2 人)
訪問結果	<p>今回は、三菱 UFJ リサーチ&amp;コンサルティング様(以下、MURC)を訪問させていただき、シンクタンクの役割や業務内容など会社全体に関わること、社員の方々のキャリアに関することなどを伺った。同社には過去にも数度、国際経営学部生が訪問させていただいているが、今回も丁寧な進行により、充実した調査活動となった。</p> <p>同社シンクタンク部門のクライアントは主に官公庁・自治体等であるが、ステークホルダーは学術・研究機関、民間企業、市民等と多岐にわたる。MURC は経済的利益のみならず社会的、環境的価値も追求する「パブリック・ビジネス・コーポレーション(PBC)」としての活動を行っている。コンサルティングに留まらず、公共性と公益性を重視されていることが特長のひとつではないかと感じた。</p> <p>業務のプロジェクトのフローの一例として、クライアントとの話し合いの後、プラン構想を行い、モデル事業(小さな規模で行う)が成功した場合に大規模な本事業へと移行するものがある。他のシンクタンクと異なり、MURC にはデジタル実装部門が存在しない。他の多くの企業が DX(デジタルトランスフォーメーション)や IT システムの導入支援を行う中、MURC のシンクタンク部門は、前身である研究所の一面を引き継ぎながら、官公庁と伴走し、地域住民の声を重視した政策提言や社会実験に力を入れていることが印象的であった。</p> <p>さらに印象的だったのは、働き方の柔軟性である。育児中の研究員の方も、出社時間を自由に調整できる制度や、自身の収入を自分で決められる仕組みがあることで、少ない負担で仕事を続けられているという(注:シンクタンク部門の場合)。例えば、子供が体調を崩した際には出社時間を遅らせることができ、家庭と仕事の両立が可能である。体調やモチベーション、家庭の事情に応じて働き方をアレンジできる点は、現代的で多様性を尊重する企業文化の表れであり、非常に魅力的だと感じた。</p> <p>また、複数の社員の方がそれぞれの分野において活動事例を紹介してくださった。特に興味を引かれたことは、2020 年に経済産業省と協力して取り組んだ政策提言である。新型コロナウイルス感染症の影響により、企業は売上減少や資金繰りの悪化、働き方の変化などの問題に悩まされた。特に、テレワークの加速や地域経済の再構築が重要な対応策として挙げられており、MURC が官公庁と連携して地域住民の声を反映している点は、まさにこのような社会的ニーズに応える取り組みだと感じた。</p> <p>今回の訪問を通じて、MURC という企業が、官公庁という大きなクライアント、大きなプロジェクトを相手として活動しているだけでなく、官公庁とともに地域に密着した身近な課題解決に努めていることを知ることができた。さらに、シンクタンクという存在が社会に果たす役割の大きさを感じ、今後の進路選択やキャリア形成を考える上で、大きな示唆を得ることができ、大変充実した調査活動となった。</p>

※訪問時の写真

